

平成 17 年度 春期 システム監査技術者試験 解答例

午後 試験

問 1

設問		解答例・解答の要点	
設問 1		営業 1 部と営業管理部の業務上の必要性からアクセス件数が違うことなど，インターネットを利用する環境に差があり，固有リスクが異なることを，適切に記述していること	
設問 2		A 社内で慣用的に行われている統制を監査項目とする，インターネット利用において，監査人がリスクが高いと判断する項目を監査項目とするなど，監査項目を設定する視点について，適切に記述していること	
設問 3	(1)		業務目的外の Web 利用の抽出基準が異なること，アクセス件数が部門によって異なることなど，必ずしも営業管理部の方が改善されているとはいえない根拠又は事実を，適切に記述していること
	(2)	次のいずれかの組合せについて，適切に記述していること	
		未検証項目の番号	(5)
		監査手続	システム管理部が各部門に対してインターネットの適正な利用に関する教育を実施しているかどうかについて，システム管理部長へのインタビューや教育記録の閲覧など，その実施状況が確認できるような手続を，適切に記述していること
		未検証項目の番号	(6)
		監査手続	システム管理部が，監視サーバに追加設定すべき警告対象について見直しを実施しているかどうかをシステム管理部長にインタビューで確認するなど，その実施状況が確認できるような手続を，適切に記述していること
設問 4		十分な事実確認や監査証拠が収集できず，営業管理部に対する監査意見の形成を誤るなど，統制リスクの大小に応じた発見リスクを小さくできる監査手続を実施しないと監査上のリスクが高くなることについて，適切に記述していること	

問 2

設問		解答例・解答の要点	
設問 1		監査対象システムの決定方法の問題点として，システムが保有する顧客データの件数や内部の脅威などについて，未評価であることを適切に記述していること	
設問 2	(a)	システムに登録されている利用者 ID と部員名簿を照合する監査手続，利用者 ID の申請書とシステムのログを照合する監査手続などを適切に記述していること	
	(b)	利用者へのインタビューによってパスワードの変更状況を確認する監査手続，ログの精査によってパスワードの変更状況を確認する監査手続などを適切に記述していること	
設問 3		システム部から電子バンキング部に提出された申請書とアクセスログを照合し，該当する申請書がないアクセスがあるかを確認するなど，統制の運用面に着目した監査手続について，適切に記述していること	

### 問 3

設問		解答例・解答の要点
設問 1		<p>コントロールの目的と監査技法の特徴を理解し，検証手続を具体的に記述していること</p> <p>(1) テストデータ法や ITF 法を利用し，棚卸差異レポート出力の処理の正確性を確認できる検証手続を，適切に記述していること</p> <p>(2) ITF 法を利用し，妥当性の判定（承認入力又は拒否入力）をルールどおり実施しているか確認できるような検証手続を，適切に記述していること</p>
設問 2		意図的な生産管理課の不正というリスクを防止・検出するコントロールとして，生産管理課内部での職務分離やこれを支援するアクセスコントロール，実地棚卸入力結果の生産管理課以外での分析及び確認などの手続を，適切に記述していること
設問 3	不正の方法	プログラムの変更やデータ管理に関する職務分離，アクセスコントロール上の弱点，責任部署によるマスタ登録結果の確認の欠如などによって，在庫金額集計から送信までの過程で，プログラムやデータを不正に変更したり，単価マスタを不正に修正できる可能性を識別し，その具体的な不正行為を，適切に記述していること
	防止する対策	上記で識別した不正行為のリスクを理解し，実現可能であると考えられる職務分離やアクセスコントロールの強化，修正結果のチェックの導入などの防止策を，適切に記述していること

### 問 4

設問		解答例・解答の要点
設問 1		<p>目標の達成度を評価する指標として，リプレイスによるサービスレベルの品質にかかる，平均故障間隔，平均修復時間，オンラインのレスポンスタイム，自社要員で解決できた障害の割合などの具体的な指標を，適切に記述していること</p>
設問 2	システム部門	システム部門の要員をサーバシステム向けに再教育するための費用，利用部門向けの利用マニュアル作成や操作教育のための費用，稼働後の障害の切分けや保守に必要な人件費などについて，適切に記述していること
	利用部門	利用部門において運用テストを行う費用，業務運用の見直しや業務マニュアルの再作成のための費用などについて，適切に記述していること
設問 3		コスト削減を目的に汎用機システムをリプレイスする場合，信頼性や安定性の低下を招くおそれがあること，サービスレベルが十分に達成できないおそれがあること，ユーザの業務運用が変更されるおそれがあることなどのリスクについて，適切に記述していること